

【認知症対応型共同生活介護用】

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年1月4日

【評価実施概要】

事業所番号	0770302115		
法人名	社会福祉法人 いずみ福祉会		
事業所名	グループホーム すぶりんぐ		
所在地	福島県郡山市安積町笹川字関谷田37 (電話) 024-937-3881		
評価機関名	福島県社会福祉協議会		
所在地	福島県福島市渡利字七社宮111番地		
訪問調査日	H20.12.17	評価確定日	H21.1.27

【情報提供票より】(平成20年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年 9月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤18人, 非常勤 0人, 常勤換算17人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	2階建ての	1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	49,800 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	280 円	昼食	400 円
	夕食	470 円	おやつ	150 円
	または1日当たり	1,500 円		

(4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	1 名	要介護2	6 名		
要介護3	8 名	要介護4	3 名		
要介護5		要支援2			
年齢	平均 87 歳	最低	68 歳	最高	100 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	寿泉堂総合病院、寿泉堂松南病院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームは、国道4号線から少し入った閑静な住宅地に位置している。近くには、同法人が運営する特別養護老人ホームや病院等があり、環境的にも恵まれている。鉄骨2階建て(2ユニット)ホームの中は広い空間があり、ゆったりとしている。利用者の表情も明るく、職員との関係も良い印象を受けた。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価で、指摘された取り組みを期待したい内容である、災害対策における地域の協力体制を強化するについては、運営推進会議において地区の区長に話をしているが協力の確認は行っていない。また、災害の備え(非常食など)についても、検討中で具体的な改善に向けた話し合いは行われていない。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者が、サービス評価の意義や目的を全職員に伝え、職員に自己評価用紙を配布し記入してもらい、管理者がとりまとめ、その結果について職員全員で話し合いを行った。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5)
	運営推進会議は開催され、議事録も作成されている。会議の委員には、地元町内会代表や家族、民生委員等が参加しており、意見や要望を聞いて話し合っているが、会議の開催が施設の都合で、3~4ヶ月に1回開かれており、2ヶ月に1回の開催は行われていない。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族から意見や要望を自由に出してもらえよう意見箱を設置しているが、意見等はあまり出されていない。面会時や電話等で家族に話したことは、入居者生活表に記入し、ミーティングで話し合い運営に反映させている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入しており、回覧板により、地域の取り組みや様子を知ることができる。また、地域の中学生のボランティアを受け入れたり、秋の祭礼には子供会の御みこしがホームに立ち寄りたりしており、地域との交流が図られている。

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時、法人幹部職員が中心となり作成した理念を、さらに職員全員で話し合い「利用者の皆様が安心して、自分らしい生活を送れるよう全力をつくし、地域への貢献と自らの向上を目指します」という理念を作り上げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員採用時に理念を理解するよう指導し、さらに管理者は、朝礼時やミーティングを通して、日常生活の中で理念の大切さを伝え、職員の意識付けに努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入しており、回覧板により、地域の取り組みや様子を知ることができる。地域の中学生のボランティアを受け入れたり、秋の祭礼には子ども会の御みこしがホームに立ち寄りたりしており、地域との交流が図られている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者が、サービス評価の意義や目的を全職員に伝え、職員に自己評価用紙を配布し、記入してもらい管理者がまとめその結果をもう一度職員全員で話し合った。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は3～4ヶ月に1回開催され、議事録も作成されている。会議の委員にも、地元町内会代表や家族、民生委員等も参加し意見や要望を話し合い、サービス向上につなげているが、2ヶ月に1回の開催は行われていない。</p>		<p>運営推進会議の目的をもう一度職員全員で理解した上で、会議を2ヶ月に1回開催し、地域から見た、ホームへの感想や要望、意見を話し合う機会を多くしてほしい。</p>
6	9				
4.理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>年4回のホーム便りや、電話、面会の際に、利用者の生活の様子や職員の異動を、定期的に家族へ報告している。また、何か変化があれば、管理者が利用者家族へ報告し、随時の報告は面会の際担当者が知らせている。金銭出納の報告は、3ヶ月ごとに報告し、家族から、確認印を頂いている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族には、意見や要望を自由にだしてもらえよう、意見箱を設置しているが、意見等はあまり出されていない。また、面会時や電話等で家族と話したことは、入居者生活表に記入しミーティング等で話し合い運営に反映させている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>年1回、職員の質の向上のため、法人内の異動を行っている。馴染みの関係を作るために、2つのユニットでユニットの区別なく仕事ができるよう配慮している。異動があった場合は、ホーム便り等で家族に知らせ、理解を得るようにしている。</p>		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人主催の勉強会を開催しており、外部研修にも職員を積極的に参加させるようにしている。研修後は報告会を行い全職員に伝えているが、内部研修についての年間計画は立てられていない。		内部研修についても、年間計画を立て職員の資質向上に努めてほしい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム連絡協議会に加入し、研修会を通じて同業者との交流に努めている。また、他の介護保険事業所との情報交換や交流を積極的に実施している。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の生活の中で、利用者から教えてもらえるような場面を多くもてるように、言葉がけに配慮している。また料理の作り方や味付け等を、教えてもらったり、利用者から励ましてもらったりして共に支えあう関係を築き、笑いや喜びを共有している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の行動、言動、様子、気持ちなど、本人と向き合い、話をすることを日頃から大切にしている。日々の会話の中で、表情からも思いや意向を読み取るようにしている。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画のための検討会議を行い、本人、家族の意見を取り入れながら職員全員で話し合い介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは3ヶ月毎としているが、利用者の状態の変化に応じ臨機応援に見直しを行っている。毎月フロアミーティングを行い、利用者の状態変化等を職員間で共通認識している。また、「ケアチェック表」「必要と思われる支援内容表」を作成した上で介護計画のための検討会議を行い、見直した介護計画を作成している。さらに、3ヶ月ごとに定期的な介護サービス内容の評価を行い、介護計画の見直しに活かしている。		
3.多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)	/	/	/

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に利用者や家族に希望の確認を行い、特に希望やかかりつけ医のない場合は、協力医療機関をかかりつけ医とすることに、同意を得ている。受診に家族が同行できない場合は、職員が通院介助を行い受診結果の共有も行っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期についてホームでの対応については、入居時に家族と話し合いを行っている。職員間においても、できることできないことをしっかりと話し合っている。重度化した場合や終末期は、基本的に医療機関にお願いしている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報については、契約時に同意をもらっている。情報の保管についても鍵のかかる場所に保管する等の配慮がなされている。また、日常的にプライバシーを損ねない言葉かけに注意することを管理者は申し送りで職員へ話している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日そのときの思いや気持ちを尊重し、無理に押し付けないで一人ひとりのペースを大切にしており、個別の対応をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も利用者と共に食事をし、和やかな雰囲気の中で職員の言葉掛けやさりげない支援が行われていた。利用者と一緒に、食事の準備や調理、食事の盛り付け、片付けが行われており、利用者の好みによりメニューを出したりするなど食事が楽しくなるように配慮している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴が可能で、一人ひとりの希望に合わせ、個人の状態に合わせた入浴を行っている。感染予防や利用者が気分良く入浴していただけるよう、一回一回湯を取り替えている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	買い物、調理、配膳、後片付け、掃除等、利用者一人ひとりが力を発揮できる場面作りをしている。また、ドライブなども楽しんでいる。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	利用者のその日の状態や希望に応じて、近くのスーパーに買い物に行ったり、公園を散歩したり、またドライブなど外出の機会を作っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、利用者の行動を常に把握し、鍵をかけることなく自由な生活を支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	前回の外部評価の要改善項目である地域の協力体制を強化することや、災害時の備えについて、運営推進会議において地区の区長へ話をしているが、協力の確認はまだ行っていない。また備え（非常食や飲料水）についても、検討中であり具体的な改善に向けた話し合いが行われていない。		避難訓練に地域住民や地元消防団員の参加協力への働きかけを行い、災害時に必要な備え（非常食や飲料水）についても具体的な改善に向けた話し合いを行ってほしい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取状況を毎日チェック表に記入している。普通食の食事が取りづらい人には、おかゆや刻み食等の食事を提供している。また、同法人の栄養士と相談し、栄養バランスを考えた献立を工夫している。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	前回外部評価の要改善項目であった玄関については、季節に合わせた飾りや置物を置いたり、玄関先には花を植えたプランターなどがあり改善されている。居間は天井が高く明るく圧迫感がなく、気温や日差し等は適切に調節されている。食堂には季節の花が飾られており、季節感を大切にしている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には写真やタンス等の利用者本人の持ち物が持ち込まれており、自宅での生活と差がないよう配慮されている。		

 は、重点項目。

3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名

記入担当者名 二瓶 美佐江

評価結果に対する事業所の意見

特になし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目 を記入してから内容を記入してください。